

18歳意識調査 「第33回 - 教育格差 -」詳細版

日本財団 2021年1月7日

目次

調査概要	3
学習環境の差	5
学習環境に差があった理由	6
自身の進路について相談できる人はいるか	7
自身の進路について相談できる相手	8
自身の進路について相談できる人がいない理由	9
コロナ禍で学習環境の差が広がったと感じるか	10
コロナ禍で自身の進路に影響があるか	11
コロナ禍で自身の進路にどのような影響があったか	12
コロナ禍における学習意欲への影響有無	13
教育格差を感じるか	14
教育格差を感じる時	15
教育格差の原因	16
教育格差の原因 回答理由	17
今後、教育格差は広がると思うか	19
教育格差が広がる理由	20
教育格差を是正する必要があるか	21
教育格差を是正するために必要だと思うこと	22
教育に関わる国の予算の配分について	23

調査概要「18歳意識調査」 - 教育格差 -

調査対象 全国の17歳～19歳男女

回答数 1000
※下記の割付にて回収

	17歳	18歳	19歳	計
男性	166	167	167	500
女性	166	167	167	500
計	332	334	334	1000

調査除外 下記の関係者は調査から除外
印刷業・出版業/マスコミ・メディア関連/
情報提供サービス・調査業/広告業

実施期間 2020年12月1日（火）～12月4日（金）

調査手法 インターネット調査

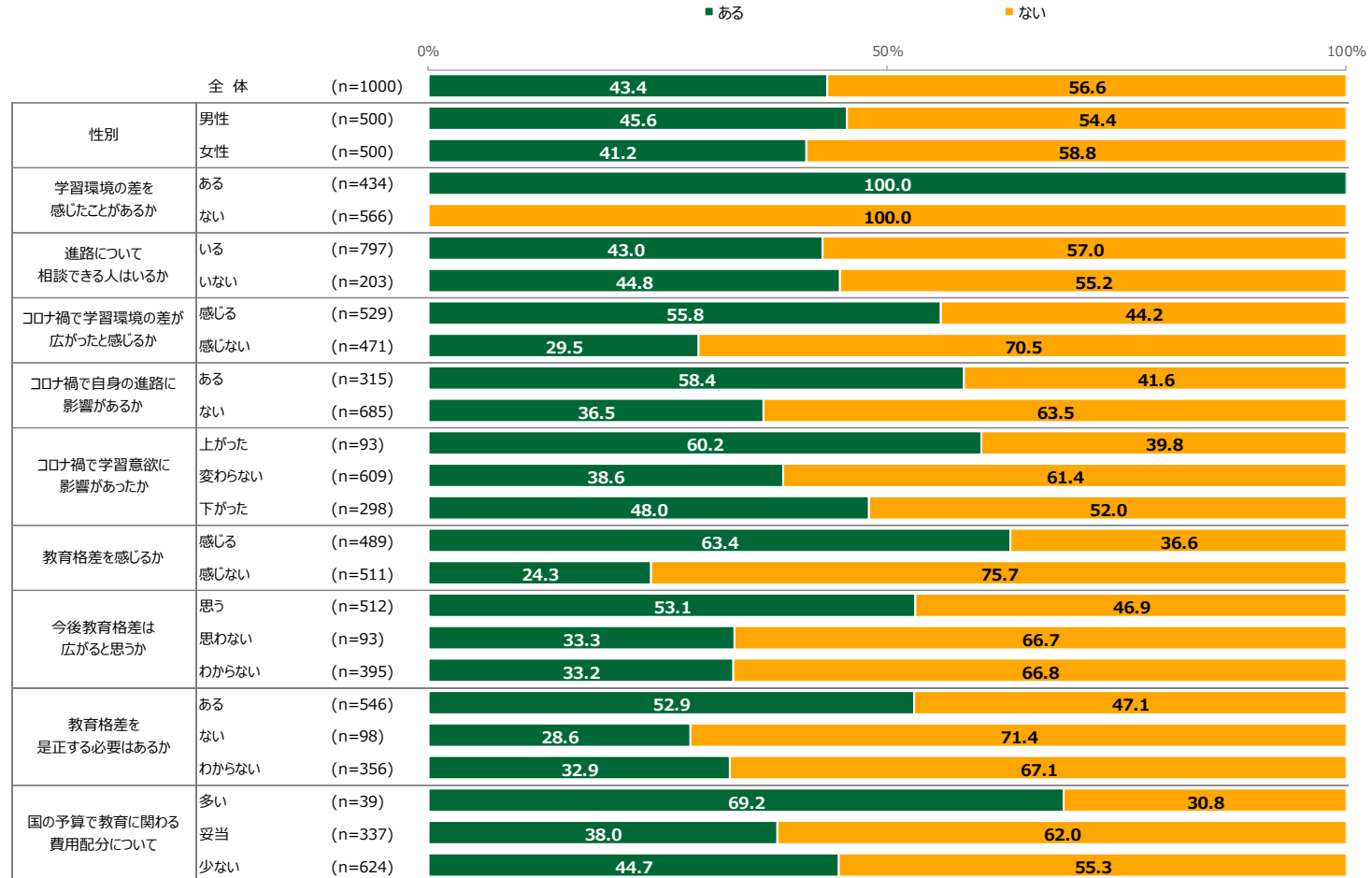
※注記：本編の図表の数値は、小数点以下第2位を四捨五入しているため、合計しても必ずしも100%とはならない。

詳細

学習環境の差

- 他の人に比べて学習環境に差があると感じている人は43.4%。

Q 他の人に比べて学習環境に差があると感じたことがありますか。

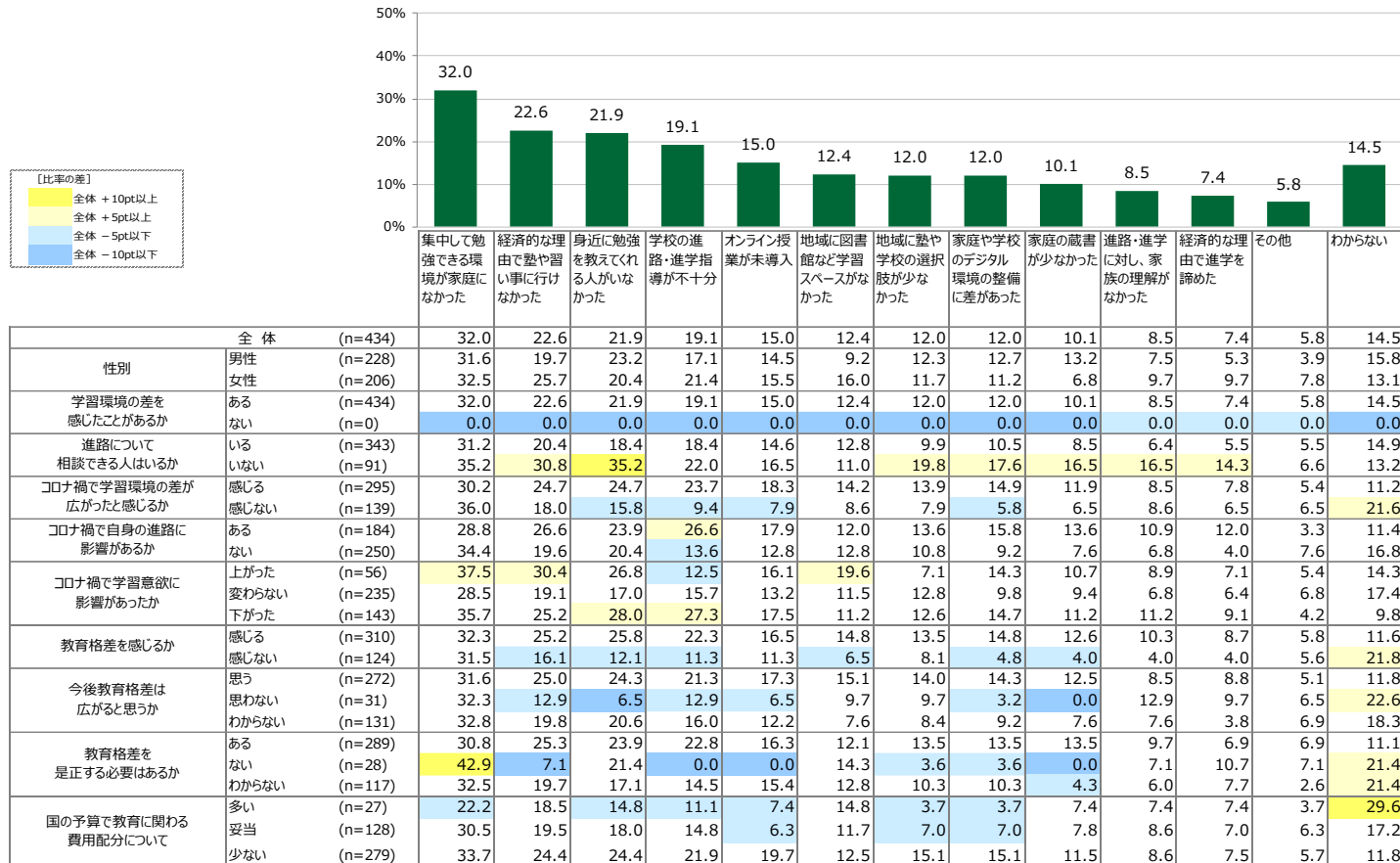


学習環境に差があるとした理由

- 学習環境に差があるとした理由は、「集中して勉強できる環境が家庭になかった」（32.0%）がトップ。
- 次いで「経済的な理由で塾や習い事に行けなかった」（22.6%）、「身近に勉強を教えてくれる人がいなかった」（21.9%）と続く。

■ 学習環境に差があると感じたことがある人

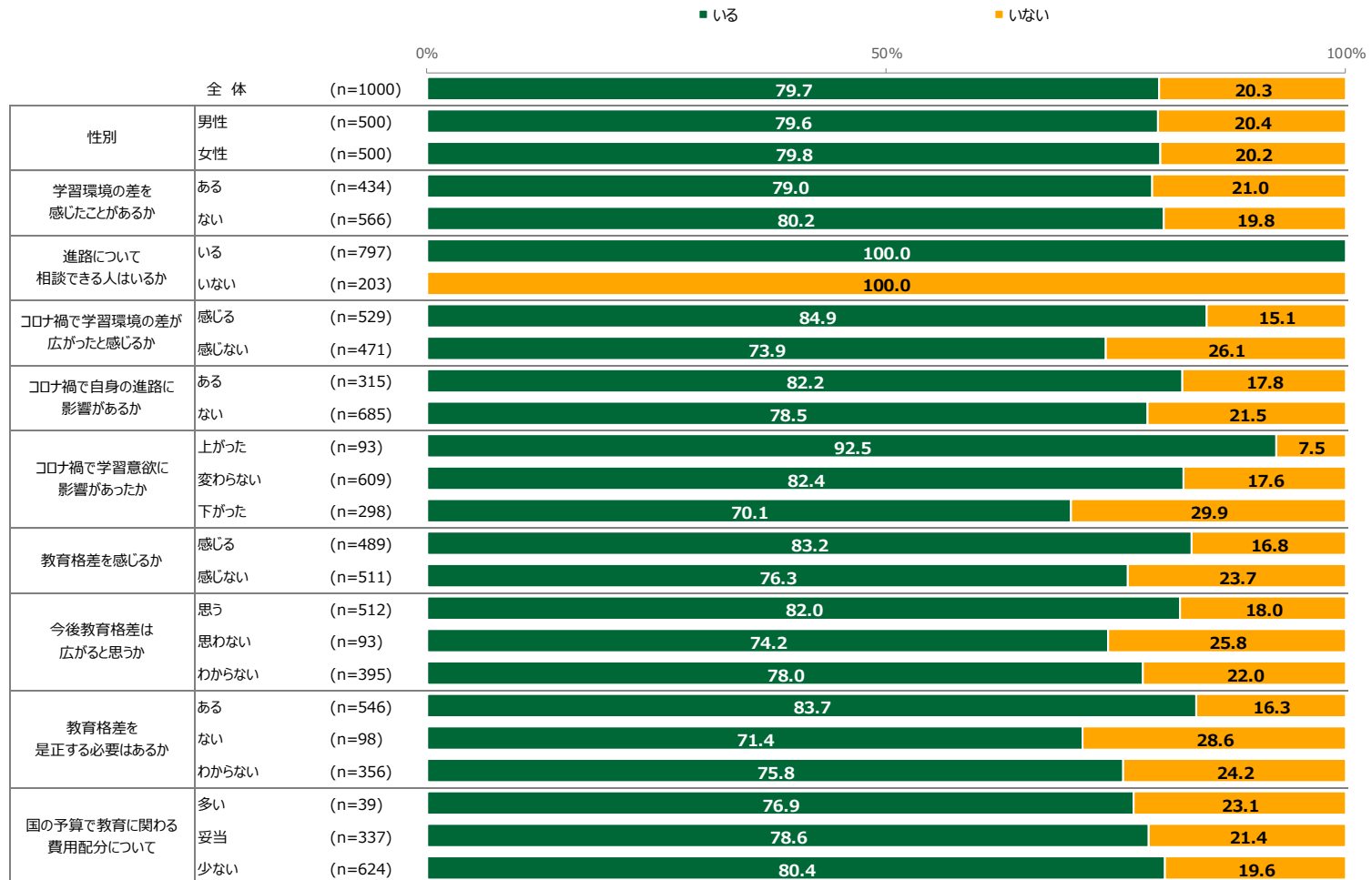
Q 学習環境に「差がある」とした理由を選択してください。（複数回答）



自身の進路について相談できる人はいるか

- 全体の79.7%の人が自身の進路について相談できる人がいると回答。

Q 自身の進路について相談できる人はいますか。

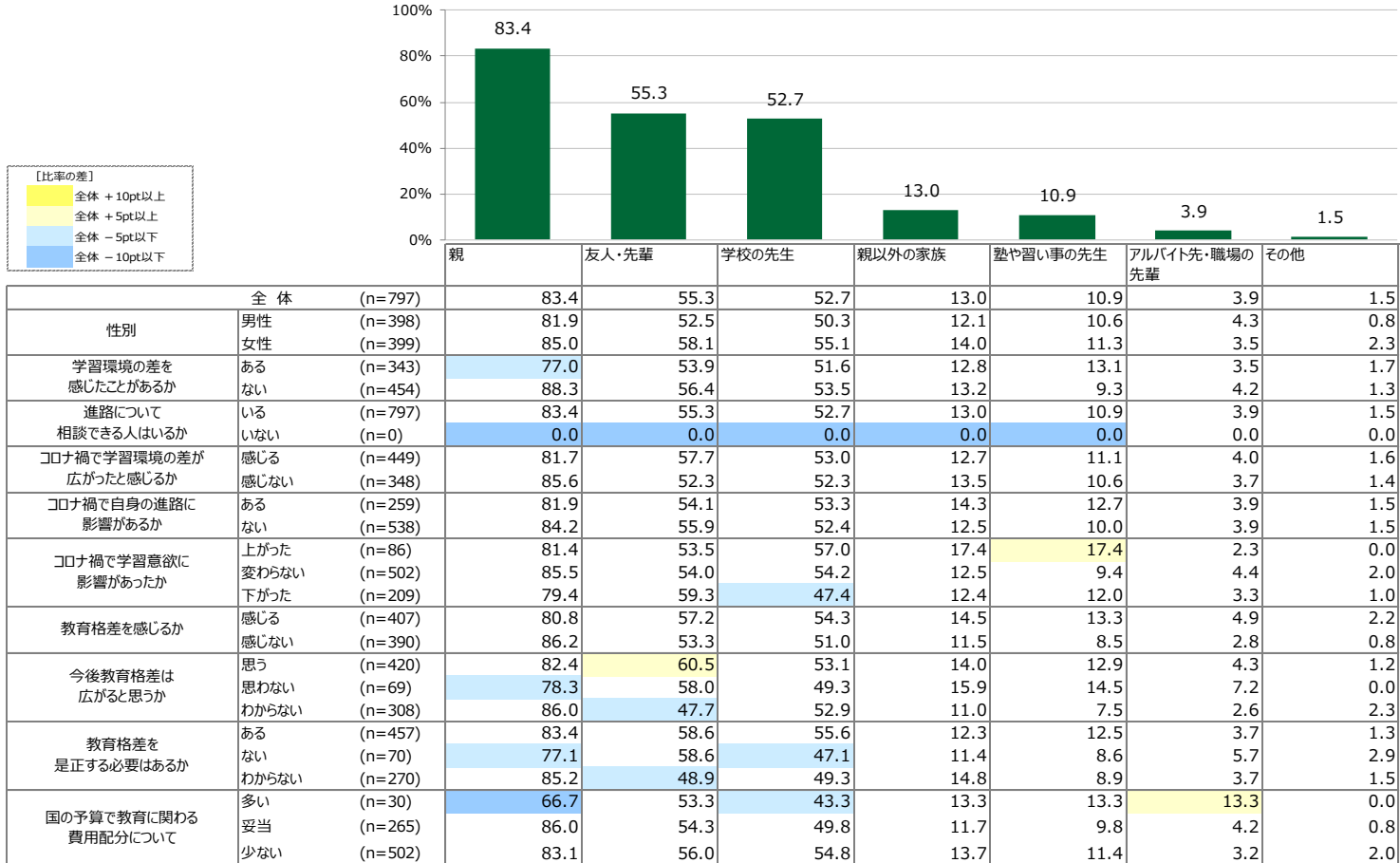


自身の進路について相談できる相手

- 進路を相談できる相手は、「親」（83.4%）、「友人・先輩」（55.3%）、「学校の先生」（52.7%）。

■相談できる相手がいる人

Q 自身の進路について誰に相談できますか。（複数回答）

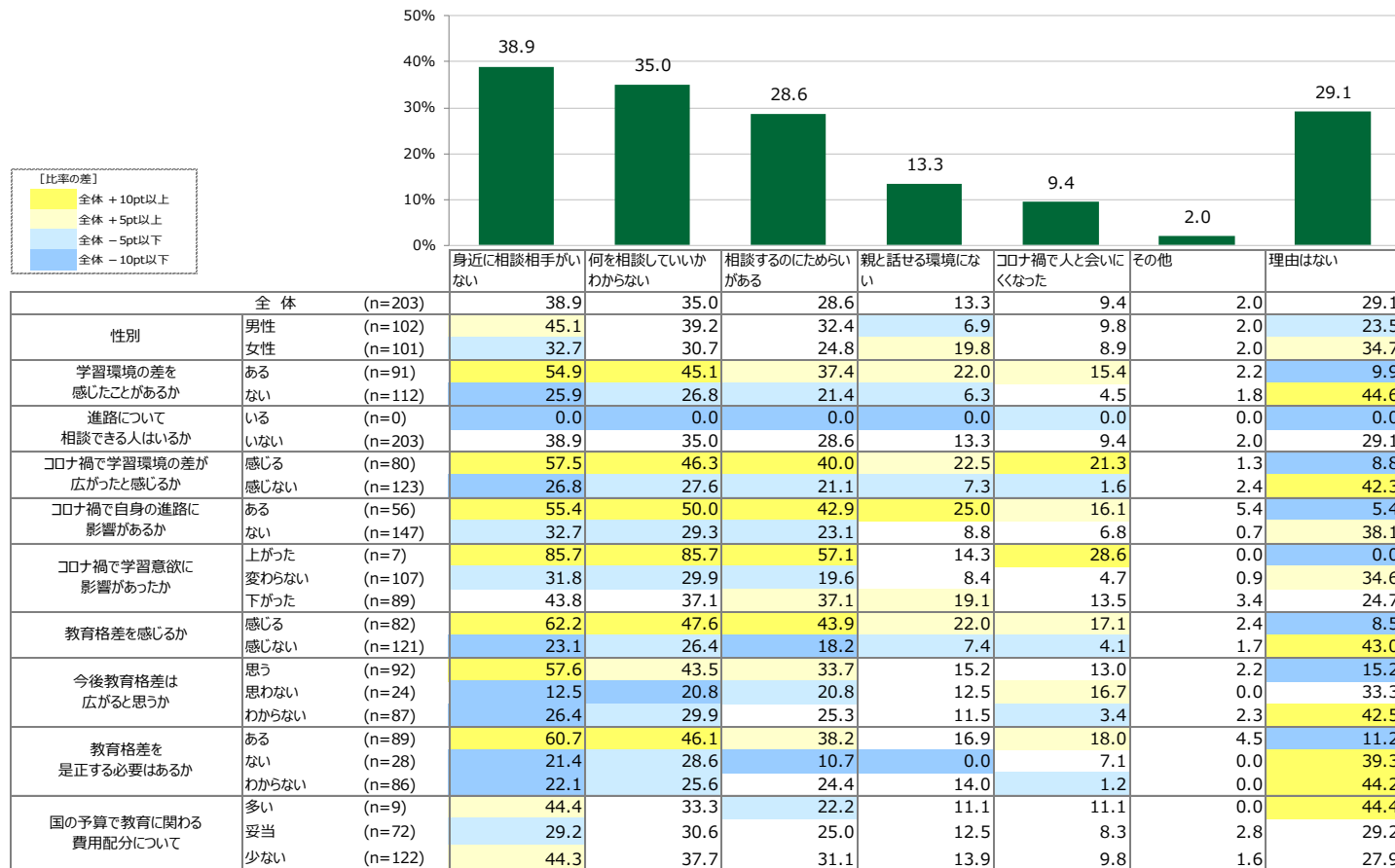


自身の進路について相談できる人がいない理由

- 相談できる人がいないと回答した理由は、「身近に相談相手がない」（38.9%）、「何を相談していいかわからない」（35.0%）、「相談するのにためらいがある」（28.6%）など。

■相談できる相手がない人

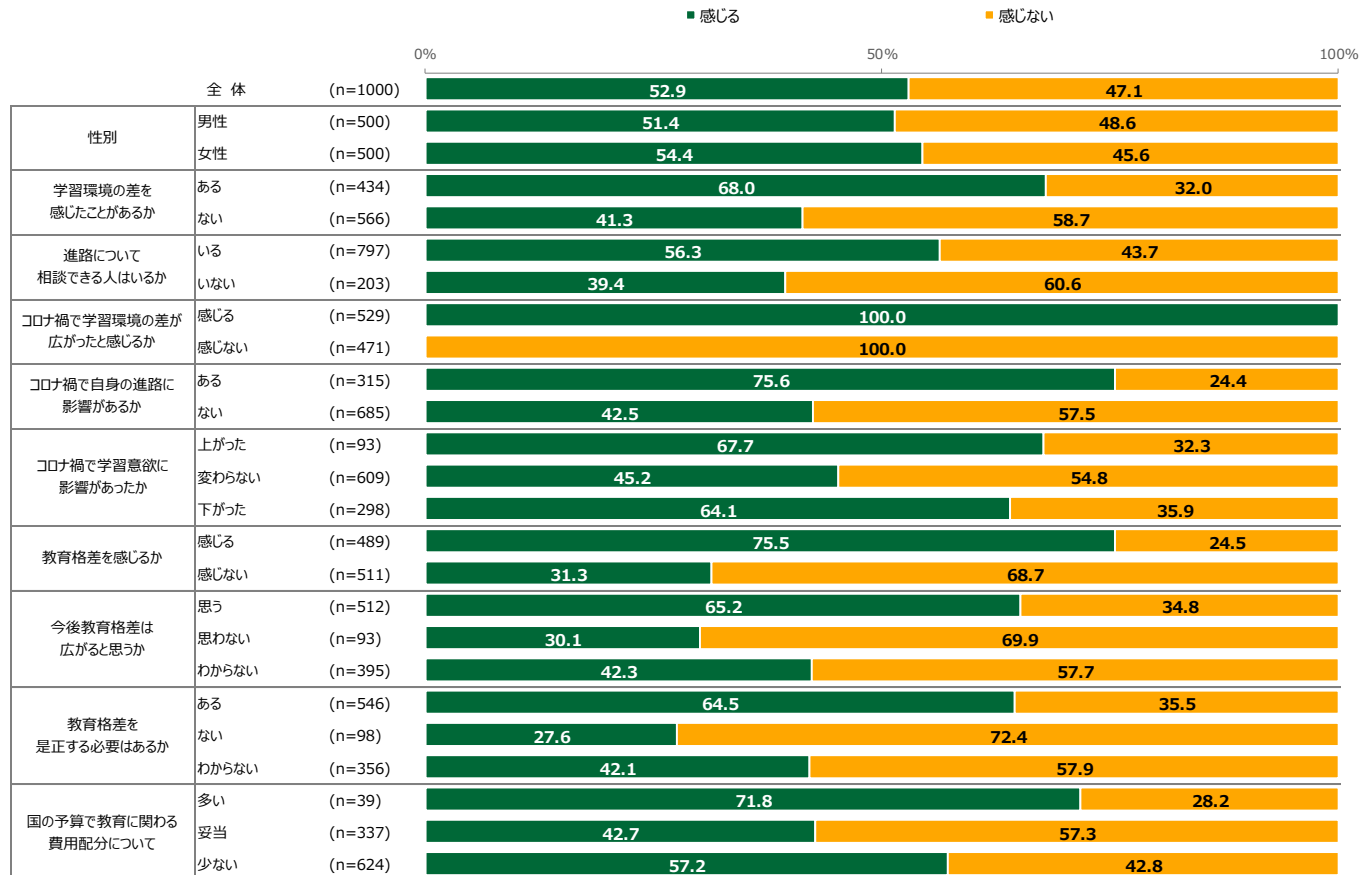
Q 自身の進路について相談できる人は「いない」とした理由を選択してください。（複数回答）



コロナ禍で学習環境の差が広がったと感じるか

- コロナ禍で学習環境の差が広がったと感じる人と感じない人で二分しており、差が広がったと感じる人は52.9%、感じない人は47.1%。
- 学習環境の差を感じたことがある層は、68.0%が「感じる（＝コロナ禍で差が広がった）」と回答しており、もともと学習環境に差を感じていた人は、コロナ禍においてさらに広がったと感じている。

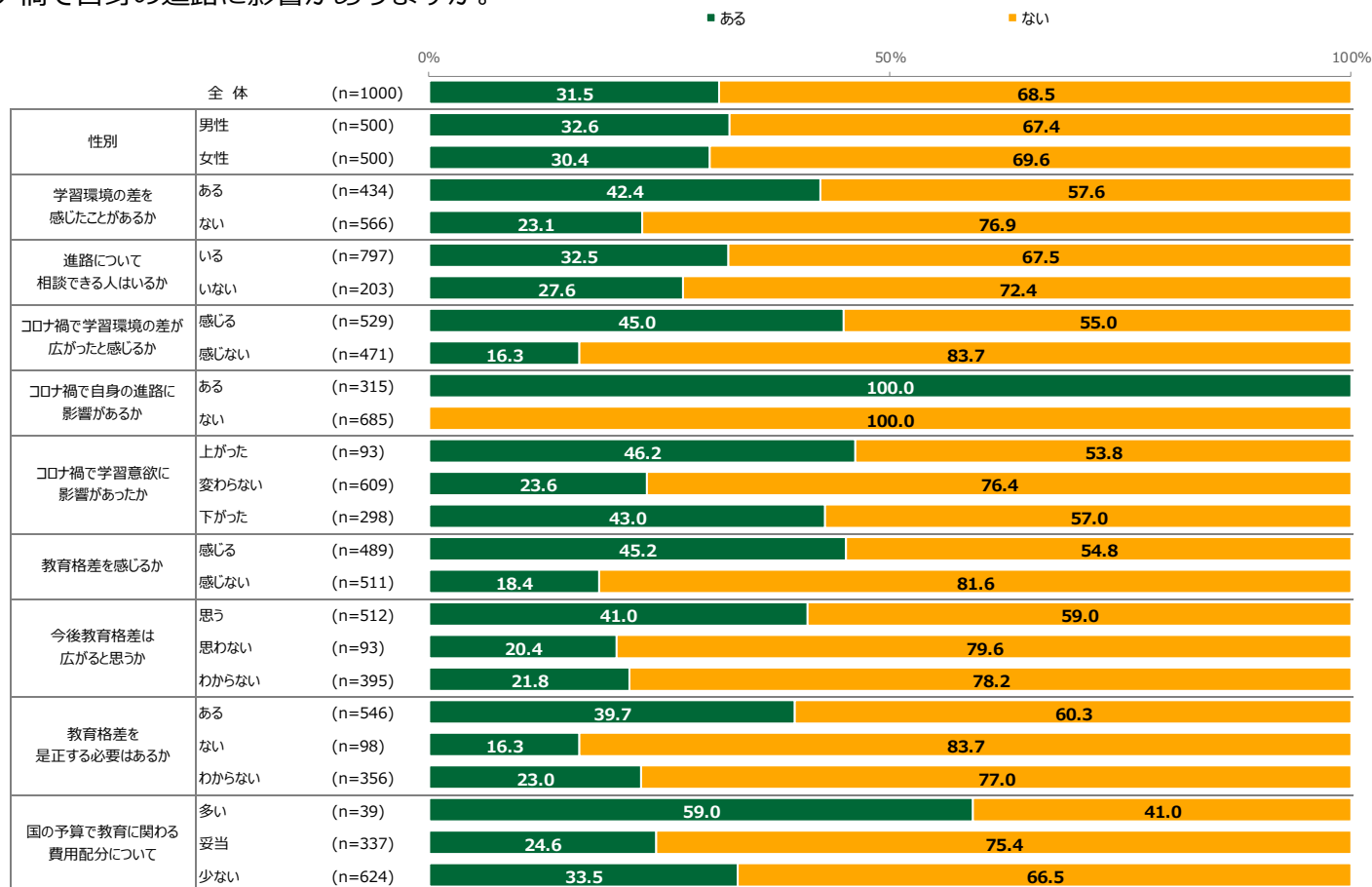
Q コロナ禍で学習環境の差が広がったと感じますか。



コロナ禍で自身の進路に影響があるか

- 自身の進路に影響があると回答したのは31.5%。
- コロナ禍で学習環境の差が広がったと感じる層では影響があると答えた人が45.0%であるのに対し、差が広がったと感じない層では16.3%。学習環境の差が広がったと感じる層とと感じない層とで、進路への影響に差が見られた。

Q コロナ禍で自身の進路に影響がありますか。

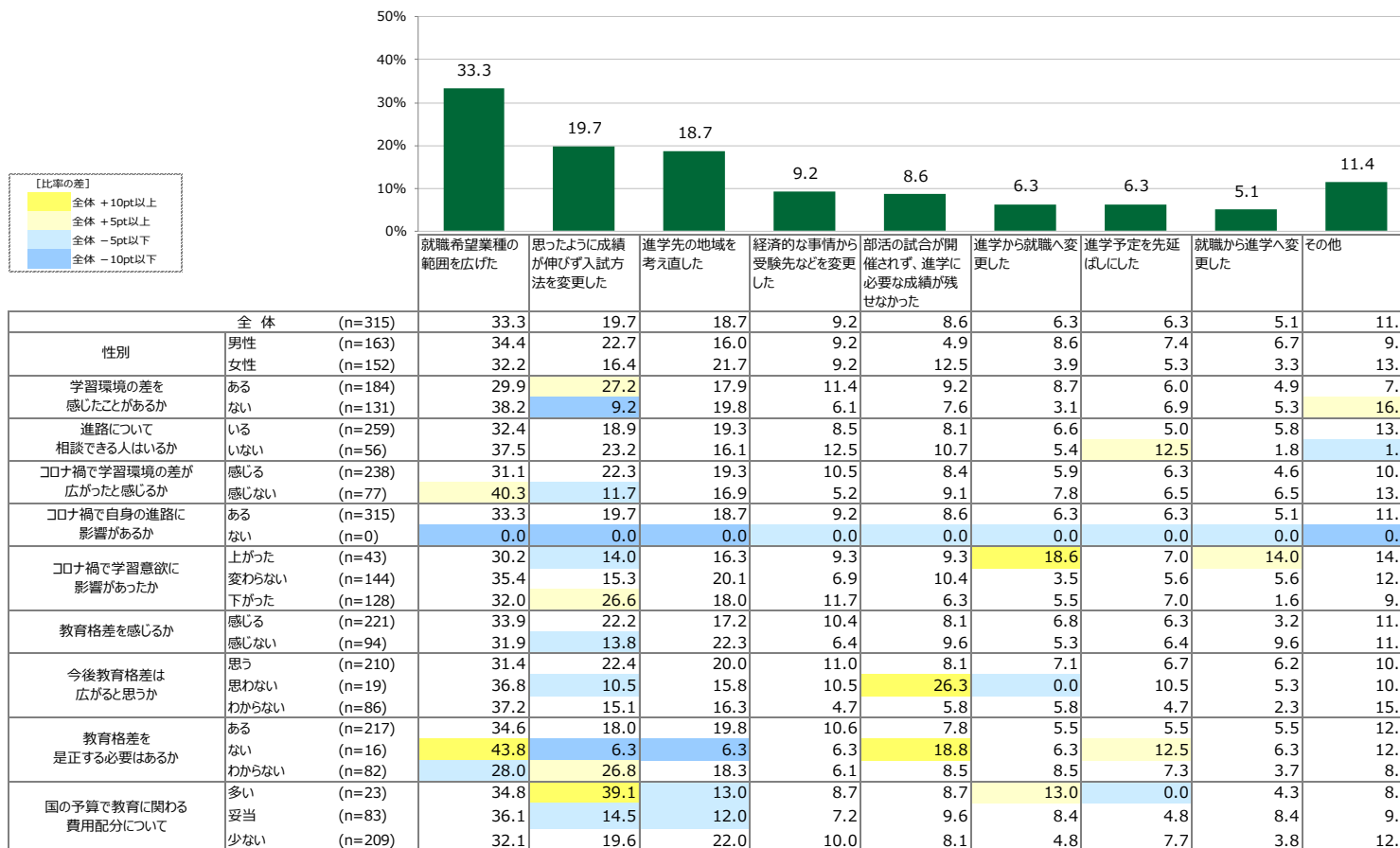


コロナ禍で自身の進路にどのような影響があったか

- ・ コロナ禍で受けた影響として、「就職希望業種の範囲を広げた」(33.3%)が最多。ほか、「思ったように成績が伸びず入試方法を変更した」(19.7%)、「進学先の地域を考え直した」(18.7%)が上位に挙がる。

■自身の進路に影響がある人

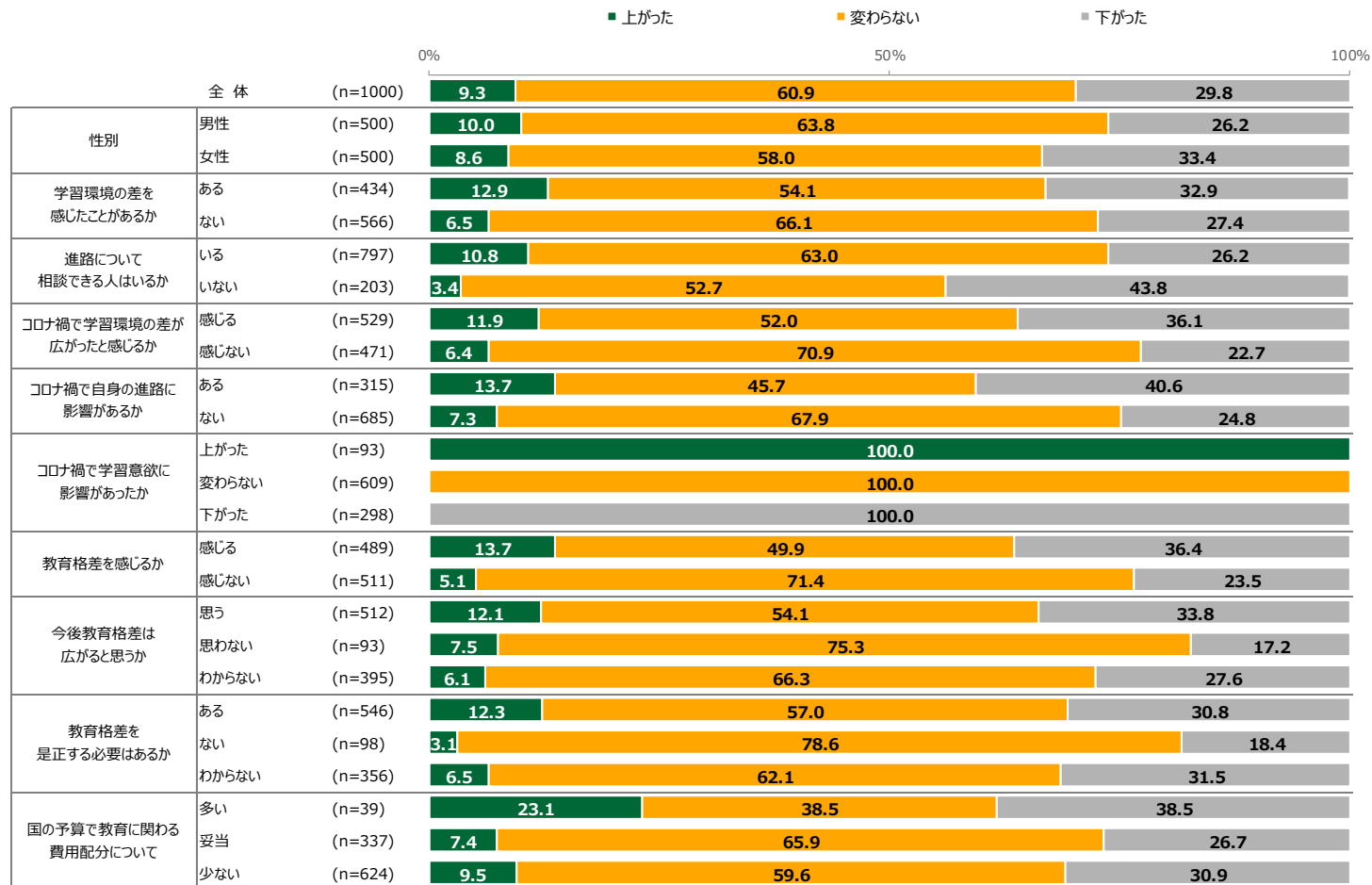
Q コロナ禍で自身の進路にどのような影響がありましたか。(複数回答)



コロナ禍における学習意欲への影響有無

- コロナ禍で学習意欲への影響については「変わらない」が最も多く、60.9%。
- 「上がった」が9.3%、「下がった」が29.8%。

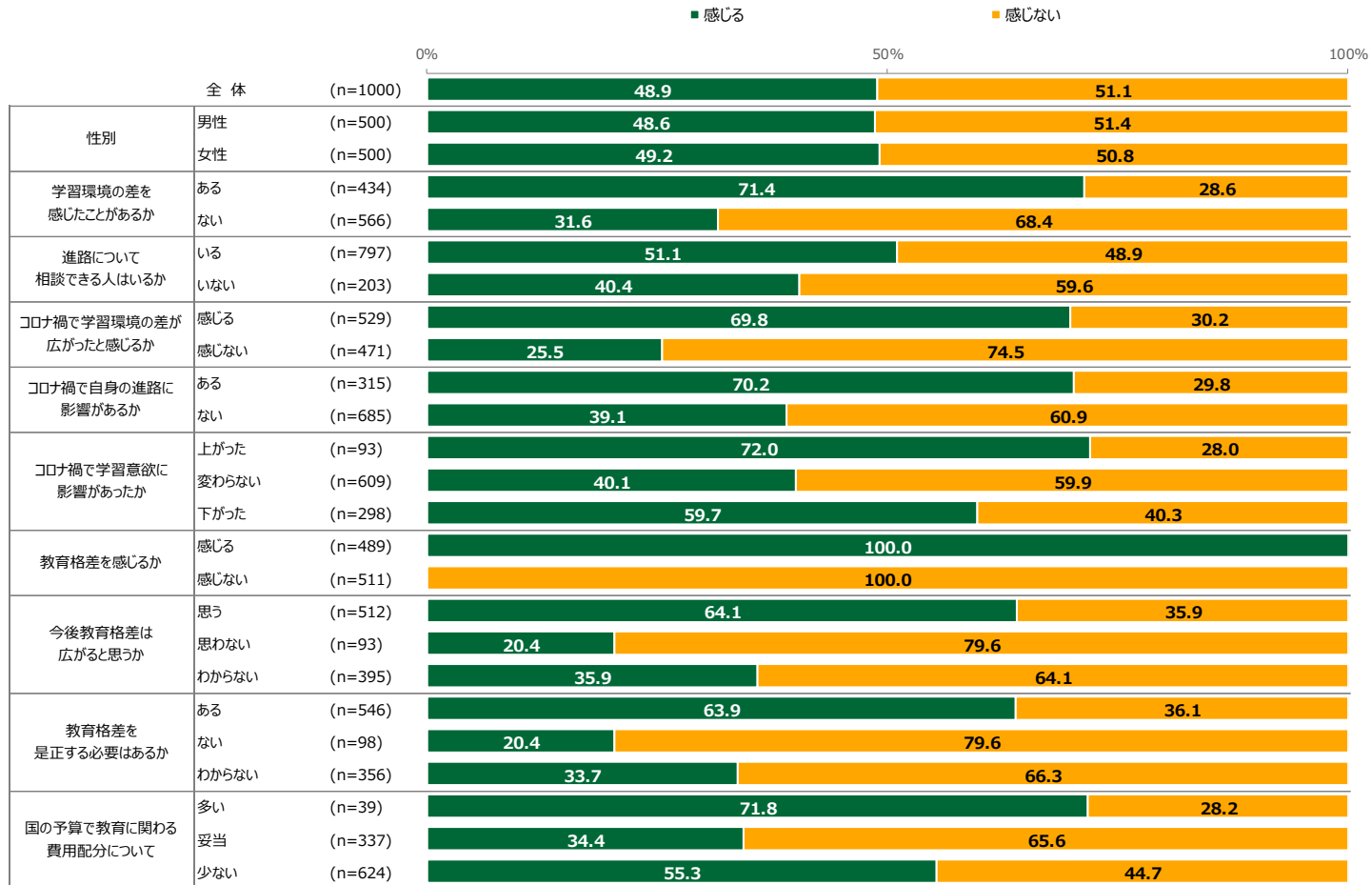
Q コロナ禍で学習意欲に影響がありましたか。



教育格差を感じるか

- 教育格差について「感じる」は48.9%、「感じない」は51.1%と意見が分かれた。
- 学習環境の差を感じたことがある層では71.4%の人が教育格差を感じるという回答。

Q 近年、教育格差が問題視されています。あなた自身も感じますか。



教育格差を感じる時

- ・「家庭の収入面で塾に通える、通えないなどの格差」「親の経済状態により進級を断念しないといけない友達を見たとき」など、自身もしくは身近な人が家庭の経済状況により進学・進級を諦めたり、塾に通えないという状況に教育格差を感じるという声が多く挙がり、経済状態の差が教育格差を生む大きな要因であることがわかる。
- ・また、「公立と私立の施設の差」「住んでる地域（都市か地方）によって受けられる教育に差を感じる」など、公立・私立の違いや地域によって学習環境の差、授業の進度の差、教育レベルの差を感じるという意見も目立つ。
- ・ほか、学校や家庭のデジタル環境の差、家庭で勉強できる環境かどうか、などの回答が見られた。

（前問：近年、教育格差が問題視されています。あなた自身も感じますか。）

Q あなたは、どのようなときに教育格差を感じますか。ご記載ください。（自由回答抜粋・原文のまま掲載）（「感じる」：n=489）

家庭の経済状態の違い

- ・ある授業を履修したかったが、学費が追加でかかるため諦めた。（女性）
- ・お金がある人は大学に進学できる（女性）
- ・コロナ禍で家族の収入が減り、進学のために奨学金を借りないと進学できなくなった。（女性）
- ・家庭の収入面で塾に通える、通えないなどの格差（女性）
- ・金銭的な問題で学校に通うのを断念しなければならないとき。（女性）
- ・金銭的な問題で進学できない人が居ること（男性）
- ・親の経済状態により進級を断念しないといけない友達を見たときです。（男性）
- ・金銭的余裕のある家庭では勉強時間が十分にある印象がある。金銭的余裕のない家庭ではアルバイトなどで稼ぎながら勉強をしなくてはならないため勉強時間が不十分だと感じる。（女性）
- ・経済的な理由で塾に行かせられないと聞いたとき（男性）
- ・経済的理由により、進路の選択肢が少ないと感じたとき（女性）
- ・高い学費を払えば有名講師の授業が受けられると聞いたとき（女性）
- ・私自身はまだ苦しい状況にはないが、親御さんの所得が減って学校を辞めざるを得ない人もいと聞くときなど。（女性）
- ・留学などした方が力は伸びるけどある程度家の経済にゆとりがないと出来ない。塾などもそう（女性）

学校による違い／公立・私立の差／地域差 （※オンライン授業対応以外の内容）

- ・ほかの高校とのカリキュラムの違い（男性）
- ・学校によって教育の質に差があるように感じた。（女性）
- ・学校や先生によって教える内容が違ったり、都会のほうが学習環境が整っていること（女性）
- ・公立と私立の施設の差（男性）
- ・公立の学校と私立の学校を比べたときの学習内容の差（男性）
- ・私立進学校であればかなり環境に恵まれると思います。（男性）
- ・住んでる地域（都市か地方）によって受けられる教育に差を感じる。（男性）
- ・全国で行われる学力テストで自分の住んでいる地域の学力が他の地域に比べて低い順位にあるとき（女性）
- ・他の学校の友達に授業の進度の話をした時（女性）
- ・大学からの友人と話している時に、都会と田舎、私立と公立では授業内容や経験できることが違うと感じる。（女性）
- ・地域によって売っている参考書が違う（男性）
- ・都会と田舎で教育方針が違う（女性）
- ・都会の進学校と、田舎の進学校のレベルの差（女性）
- ・都市部の方が教育に必要な情報、与えられる教育がより良くなると思う。（男性）

学校のオンライン授業の対応の違い

- ・オンラインがスムーズに導入できている学校とできていない学校（女性）
- ・コロナ禍のときオンライン授業で少しでも授業を進めることのできる友達を見たとき（女性）
- ・今回のコロナ禍でオンライン授業を受けられる子と受けられない子がいるというニュースを聞いた時。（男性）
- ・都会ではタブレットを使った学習が進んでいたりしていること。（女性）
- ・都市や地方でオンライン学習の機会やサービスに差があるように感じます（男性）
- ・都内ではコロナ禍で学校に行けずオンライン授業を受けている中、地方では対面で授業を始めていたとき（女性）

家庭のインターネット環境／パソコン・タブレット保有状況

- ・インターネット環境がある家庭とない家庭の差が拡大している（男性）
- ・オンライン授業などで家のインターネット環境が整っていない時（女性）
- ・デジタルデバイスの所有の有無やネット環境の有無がオンライン授業の妨げとなったから。（男性）
- ・ネット環境や家庭環境が悪く周囲の人と違いを感じたとき（男性）
- ・パソコンを持っていないと授業を受けられない（女性）

家庭環境

- ・家が騒がしく勉強できる環境にない友達が居た。（女性）
- ・家庭環境によって子供の勉強意欲に違いが生まれる（女性）
- ・自宅で自習をできる環境がない（女性）
- ・親が教育にあまり関心を持っていないと感じた時。受験の仕方すら知らないと知った時（女性）
- ・勉強環境が整っていないと感じるとき。（女性）

【教育格差を感じる時「自由回答集」】

日本財団公式webサイトに掲載 https://www.nippon-foundation.or.jp/what/projects/eighteen_survey/

教育格差の原因

- 教育格差の原因と考えるものは「家庭の経済力」（25.3%）が最多。次いで、「学校の指導力」（14.9%）、「本人の努力」（12.1%）と続く。
- 教育格差を感じる層は「家庭の経済力」と回答した人が31.7%と多く、教育格差を感じない層（家庭の経済力：19.2%）と差が見られた。また、教育格差を感じない層は教育格差の原因について「わからない」と回答している人が多い。

Q 教育格差の主な原因と考えるものを選択してください。（単一回答）



教育格差の原因 回答理由 1/2

- 教育格差の原因について「家庭の経済力」と回答した理由では、「塾に行くのも、大学まで進学するのもある程度の経済力が親に無いと難しいと思うから」「お金がないせいで高校に行かない人がいるから」「自身の家庭が経済力が低く、自身がアルバイトをしながら勉強をしなくてはならないため、勉強時間や睡眠時間が不十分であると感じる」などの回答が挙がり、自身や身近なところで家庭の経済力により進学を諦めざるを得なかったり、十分に勉強ができない状況が生まれていることがうかがえた。
- 「学校の指導力」の理由では、「オンラインで授業をやっている学校もあれば課題提出だけでほぼ自習の学校もあったから」などコロナ禍における対応の差や、「学校によって教育方針が少し違う」「学校によって教師の質が違う」「先生ごとにより教え方が異なるから」など、学校や教師による授業内容、指導内容の差なども指摘される。
- 「本人の努力」の理由では、「環境があっても本人のやる気がなければ無駄だから」「自分が勉強するかしないかで、勉強できる人とできない人に差が生まれるから」など、学習環境にかかわらず、本人の努力次第で差が生まれるという意見が挙がった。

(前問：教育格差の主な原因と考えるものを選択してください。)

Q 教育格差の主な原因は「(前問回答)」とした理由をご記載ください。(自由回答抜粋・原文のまま掲載)

「家庭の経済力」(n=253)

- お金があればある程度の学習環境が手に入るため。(女性)
- お金があれば塾に通えることができ、また参考書も買えるが、お金がないとそうはいかないから。(男性)
- お金があれば塾行ったり家庭教師頼んだりできる(女性)
- お金がないせいで高校に行かない人がいるから(男性)
- お金がなければ塾に入れない、目指す大学も変わってくるから(女性)
- お金持ちのお家ではなんでもできるがお金のないお家では選択肢が限られてしまうから。(女性)
- 家庭の経済力で学習環境が大きく変わってしまい教育格差が生じてしまうから。(女性)
- 家庭の経済力の差で進路が狭まることも十分にあるから(女性)
- 経済力があれば塾に通えたり、参考書を好きなだけ買えるから(女性)
- 経済力不足で満足な教育が受けられず就職していく人も多いから(男性)
- 自身の家庭が経済力が低く、自身がアルバイトをしながら勉強をしなくてはならないため、勉強時間や睡眠時間が不十分であると感じる。(女性)
- 塾に行くのも、大学まで進学するのもある程度の経済力が親に無いと難しいと思うから。(男性)
- 塾に行っている子は過去問とかもらっているのに、行っていない子は自力で勉強するしかないなどの差があると思う(女性)
- 奨学金を借りないと進学できない(女性)
- 進学資金を貯めるにもアルバイトの時間があるから。(女性)
- 必要な教材を買えたり、塾で好きな講座を受講できるから。(男性)

「学校の指導力」(n=149)

- オンラインで授業をやっている学校もあれば課題提出だけでほぼ自習の学校もあったから(女性)
- コロナ禍で他学校ではオンライン授業があった中で自分の通っている学校ではオンライン授業がなく、教えてもらえる機会がなく、単に課題が提示されるだけだったから。(女性)
- わかりにくい先生に教えてもらうのとわかりやすい先生に教えてもらうのとで全然理解が変わるから(女性)
- 学校によって教育方針が少し違う場合があるため。(女性)
- 学校によって教師の質が違うから(女性)
- 学校に指導力のある先生が揃っていれば生徒の成績も上がると思われるから(女性)
- 学校より塾がわかりやすいと感じるから。(女性)
- 指導力によって学生のやる気も変わってくるから(男性)
- 自分がいくら頑張ってもそれを認めて褒めてくれる人やその道に詳しい人、アドバイスをしてくれる人がいなければ伸びていけないと思うから。(男性)
- 進学実績の良い学校は教え方も異なるから(女性)
- 先生ごとにより教え方が異なるから(男性)
- 先生の能力に応じて、教育格差がある。(女性)

「本人の努力」(n=121)

- コロナで家にずっといて、学校が休みだから勉強しないで済むと思う人と、学校がないから頑張らないと思って自分で頑張る人との差が生じる(女性)
- やるかやらないかは結局本人次第(女性)
- 環境があっても本人のやる気がなければ無駄だから。(男性)
- 結局はお金があっても本人のやる気がなければ学力は上がらない(男性)
- 自粛期間は、塾も閉まっていたし、オンラインでの開講も遅れているところが多かった。その中で、自分の勉強ができるか、出来ないかは、皆同じだったと思うので、自分の意思を強く持って勉強できたかどうかだと感じた(女性)
- 自分が勉強するかしないかで、勉強できる人とできない人に差が生まれるから。(女性)
- 自分の努力次第でなんでもかわるから。(女性)
- 努力すれば最低限の教育格差は埋められると思うから。(男性)
- 勉強したいと思えば、アルバイトしてお金を稼いだり時間を作ったり出来るので結局は自分次第だと思うから(女性)

【教育格差の原因 回答理由「自由回答集」】

日本財団公式webサイトに掲載 https://www.nippon-foundation.or.jp/what/projects/eighteen_survey/

教育格差の原因 回答理由 2/2

- 「教育環境の地域差」では、「デジタル教育やインターネットを活用した学習の普及に地域差があると感じる」など、デジタル環境の地域差を指摘する意見や、「都会と田舎で塾や予備校の数が程度の差はあれど異なったり、周囲の大人の進学に対する認識や積極性が違ったりするから」など、地域によって学習施設の充実度や周囲の大人の教育に対する意識に差が見られるという意見が挙がる。
- 「家庭や学校のデジタル環境の差」の理由では、「オンライン学習をしようにも、インターネット環境がない家庭があるから」「自粛期間中オンライン授業が1回もなかった」など、家庭や学校のデジタル環境が整っていないことにより授業を受けることができなかったという声が寄せられた。
- 「家庭の教育方針」では、「教育が大事だと思っている家庭なら教育にお金を惜しまないから」「どんなに自分が頑張ろうとしても家族が非協力的だったり、勉強なんて必要ないという考えだとどうしても結果が出しづらい」など親の教育方針により差が生まれてしまうという理由、「本人の資質」では、同じように勉強しても人によって身に付き方が異なるというものや、勉強意欲のある無しで差が生まれるという意見が挙がる。

(前問：教育格差の主な原因と考えるものを選択してください。)

Q 教育格差の主な原因は「(前問回答)」とした理由をご記載ください。(自由回答抜粋・原文のまま掲載)

「教育環境の地域差」(n=94)

- コロナが落ち着いている地域では対面授業、そうでないところはオンラインのままだから (女性)
- デジタル教育やインターネットを活用した学習の普及に地域差があると感じるから。(男性)
- 学校教育の内容が都会と地方では全く違うから。(女性)
- 質のいい教育を受けられる場所が東京や大阪など大都市圏に限定されてしまっていると感じるから。大学を選ぶとき、東京にはたくさん良い大学があるのに地方にはあまりなく、ゆえに地方の人は上京せざるを得ないように思われたから。(女性)
- 塾などが充実しているかが教育格差に関係していると考えたから (男性)
- 地域によってオンライン授業の有無や進学の実績など大きな差があるから (男性)
- 地域によって学習や教育に対する姿勢が違ふことで、生徒の学習に対する姿勢の違いや学力差が発生していると思うから。(女性)
- 都会と田舎で塾や予備校の数が程度の差はあれど異なったり、周囲の大人の進学に対する認識や積極性が違ったりするから。(女性)
- 都市部と田舎とでは教育に関連する設備の普及率に差があると思うから。(男性)

「家庭や学校のデジタル環境の差」(n=94)

- 5月が休校になった時、パソコンが無い家があったのでオンラインが少なかった (女性)
- いくら本人や教える側に意欲があっても、それを今の状況で受けることが出来るネット環境がなければ満足にそれを受けることが出来ないから。(女性)
- オンライン学習をしようにも、インターネット環境がない家庭があるから。(女性)
- コロナ禍でオンライン授業に対応できたかどうかだと感じるから (女性)
- 家庭によってデジタル環境に差があり、利用出来るサービスが変わるから (女性)
- 結局の所IT化、デジタル化が早く進むのは都市部の方であり、地域の人たちにも同じようなチャンスが手に入れられるかという、都市部の人たちに比べて出遅れてしまい、なかなか手に入らないこと。(男性)
- 個人のタブレット端末がないから (男性)
- 私立は、オンラインなどの環境が早かった (女性)
- 自粛期間中オンライン授業が1回もなかった (女性)
- 都心の学校や私立の学校ではタブレットなどで授業が進められるが、地方や公立校ではなかなか授業が進められずプリント学習になってしまうから。(女性)

「家庭の教育方針」(n=67)

- どんなに自分が頑張ろうとしても家族が非協力的だったり、勉強なんて必要ないという考えだとどうしても結果が出しづらいと思うから (女性)
- 家庭の経済状況、本人の努力も原因の一つだと思うけれど、家庭の教育方針が特に重要だと思う。家庭の教育方針がしっかりしていれば格差を感じないのではないだろうか。(女性)
- 教育が大事だと思っている家庭なら教育にお金を惜しまないから (女性)
- 子供は家庭で教育を受ける習慣の有無で大きく格差が出来ると思うから (男性)
- 親の価値観などを子供に押し付けるためその中で考えるため、家庭が大事だと思った (女性)
- 進学等は、親に最終的な決定権があるため。(男性)
- 大学まで行くことをすすめる親もいれば、さっさと働くことをすすめる親もいるから。(女性)

「本人の資質」(n=28)

- 学びたいという意識がない (男性)
- 同じ努力の量・質でも、人によって伸びが違うから。勉強や努力が好きなのは得。(女性)
- 本人の意欲の差 (男性)
- 日本は教育を受けようと思えばいくらでも受けられる時代だから。学力の差も本人次第だと思ふから。(男性)
- 勉強意欲と将来への危機感 (女性)

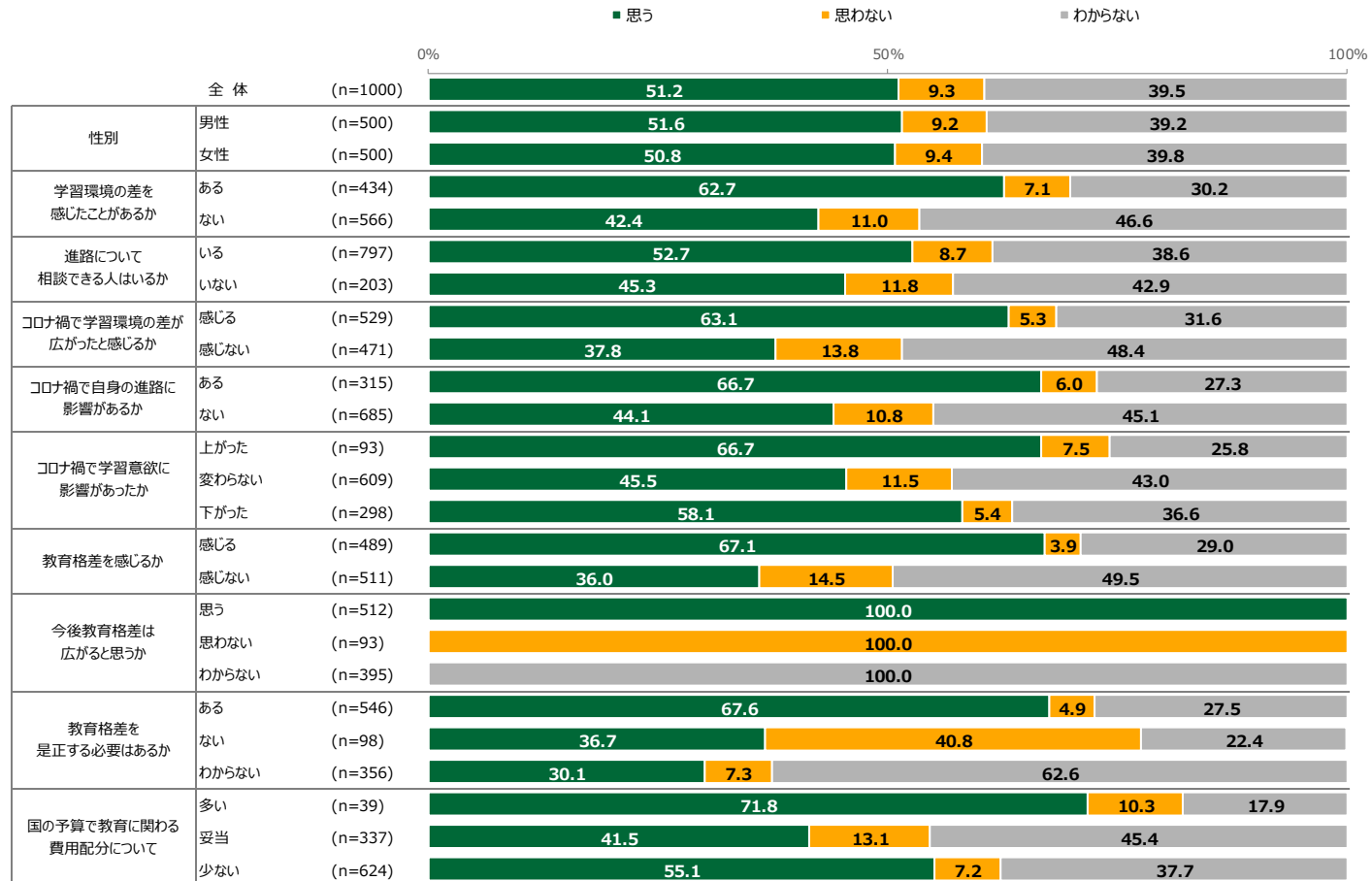
【教育格差の原因 回答理由「自由回答集」】

日本財団公式webサイトに掲載 https://www.nippon-foundation.or.jp/what/projects/eighteen_survey/

今後、教育格差は広がると思うか

- 51.2%の人が教育格差が広がると思うと回答。「思わない」（9.3%）を大きく上回る。
- 現在、教育格差を感じる層では、67.1%の人が「思う（＝格差が広がると思う）」と回答しており、教育格差を感じない層と差が見られた。

Q 今後、教育格差は広がると思いますか。

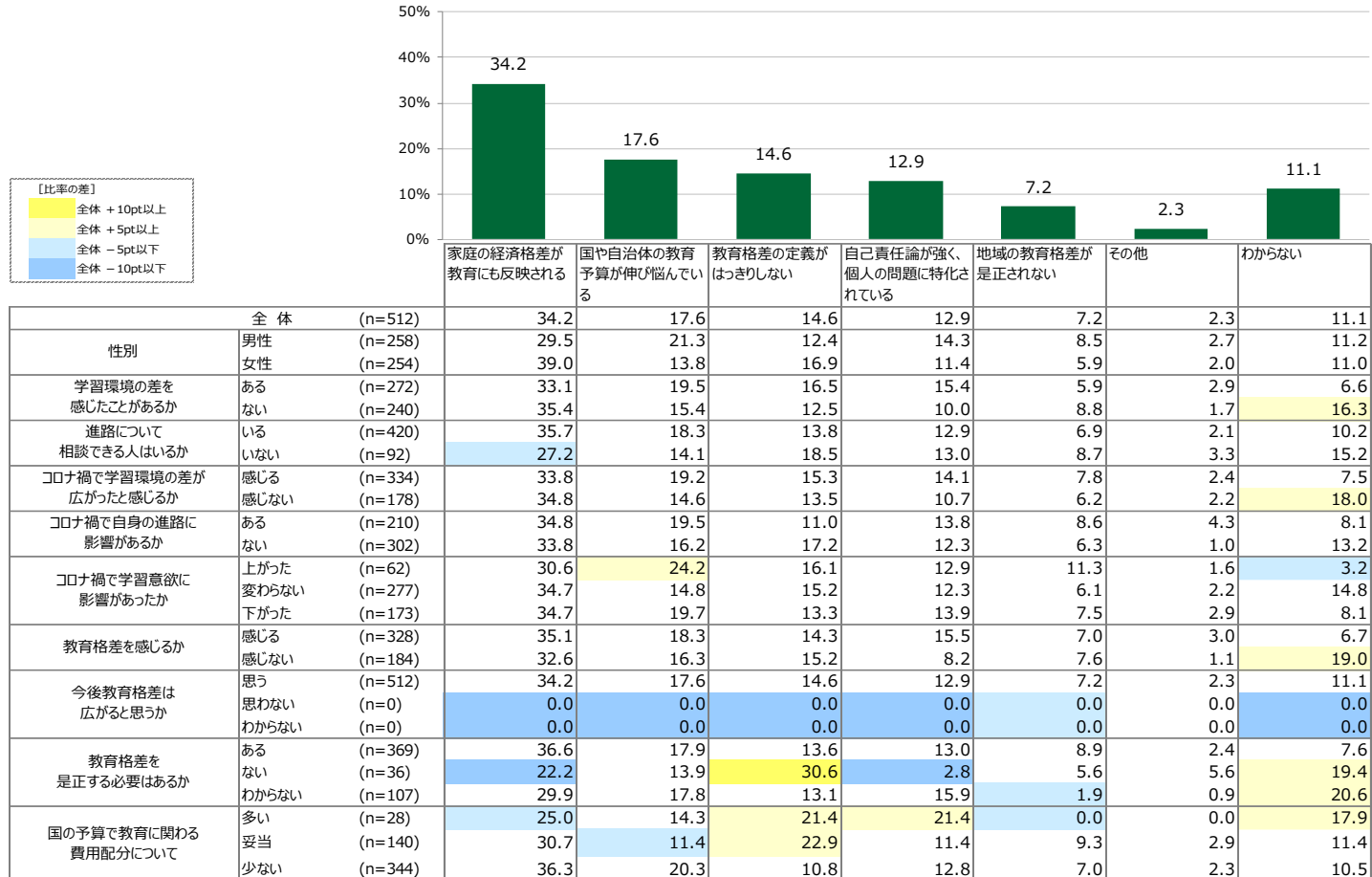


教育格差が広がる理由

- 教育格差が広がると思う理由は「家庭の経済格差が教育にも反映される」（34.2%）が最多。ほか、「国や自治体の教育予算が伸び悩んでいる」（17.6%）、「教育格差の定義がはっきりしない」（14.6%）が上位に挙がる。

■今後、教育格差が広がると思う人

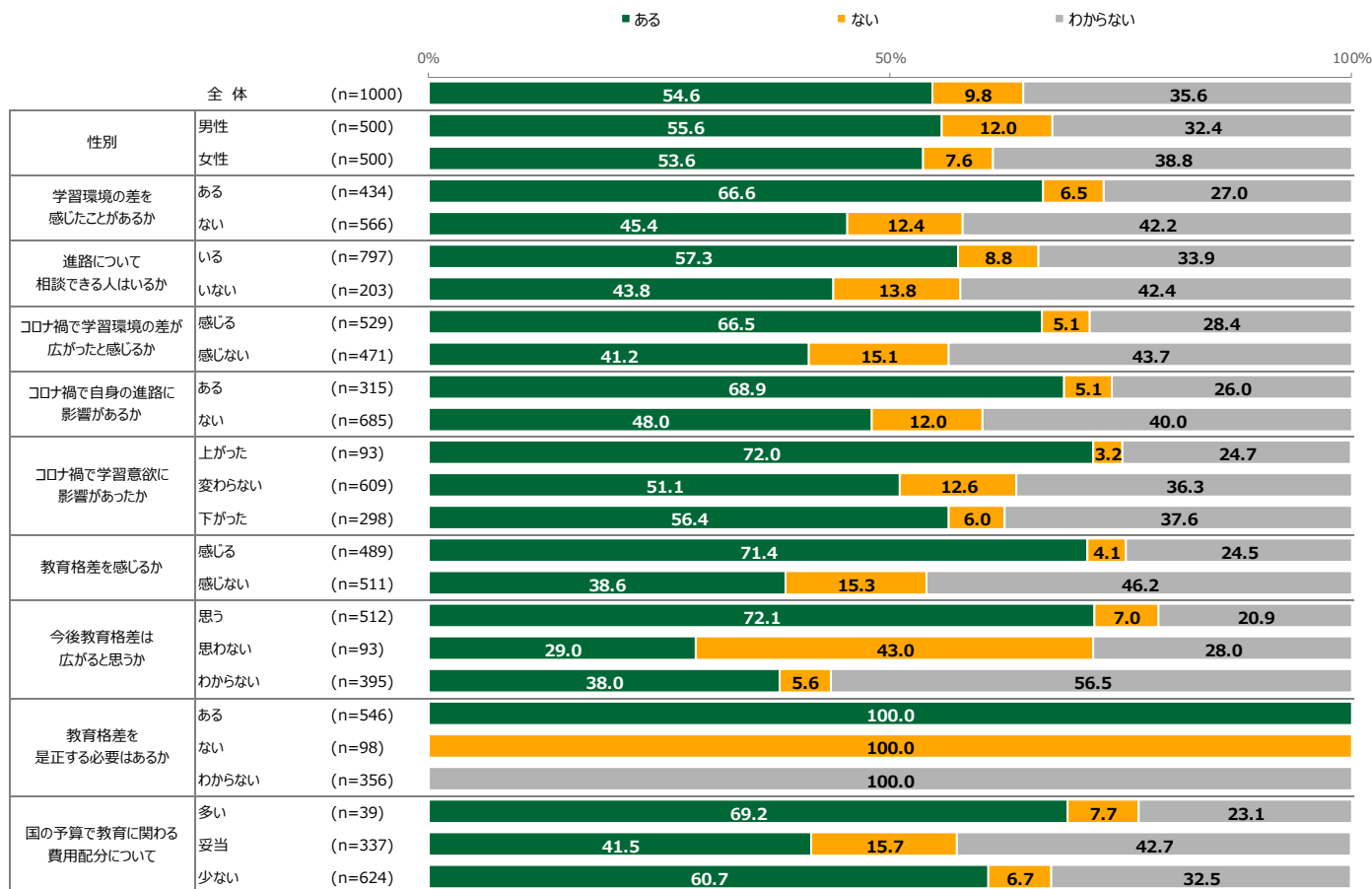
Q 教育格差が広がる主な理由は何だと思えますか。（単一回答）



教育格差を是正する必要があるか

- 54.6%の人が教育格差を是正する必要があると回答。「ない」（9.8%）を大きく上回る。
- 現在、教育格差を感じる層では、71.4%の人が「ある（=是正する必要がある）」と回答しており、教育格差を感じない層と差が見られた。

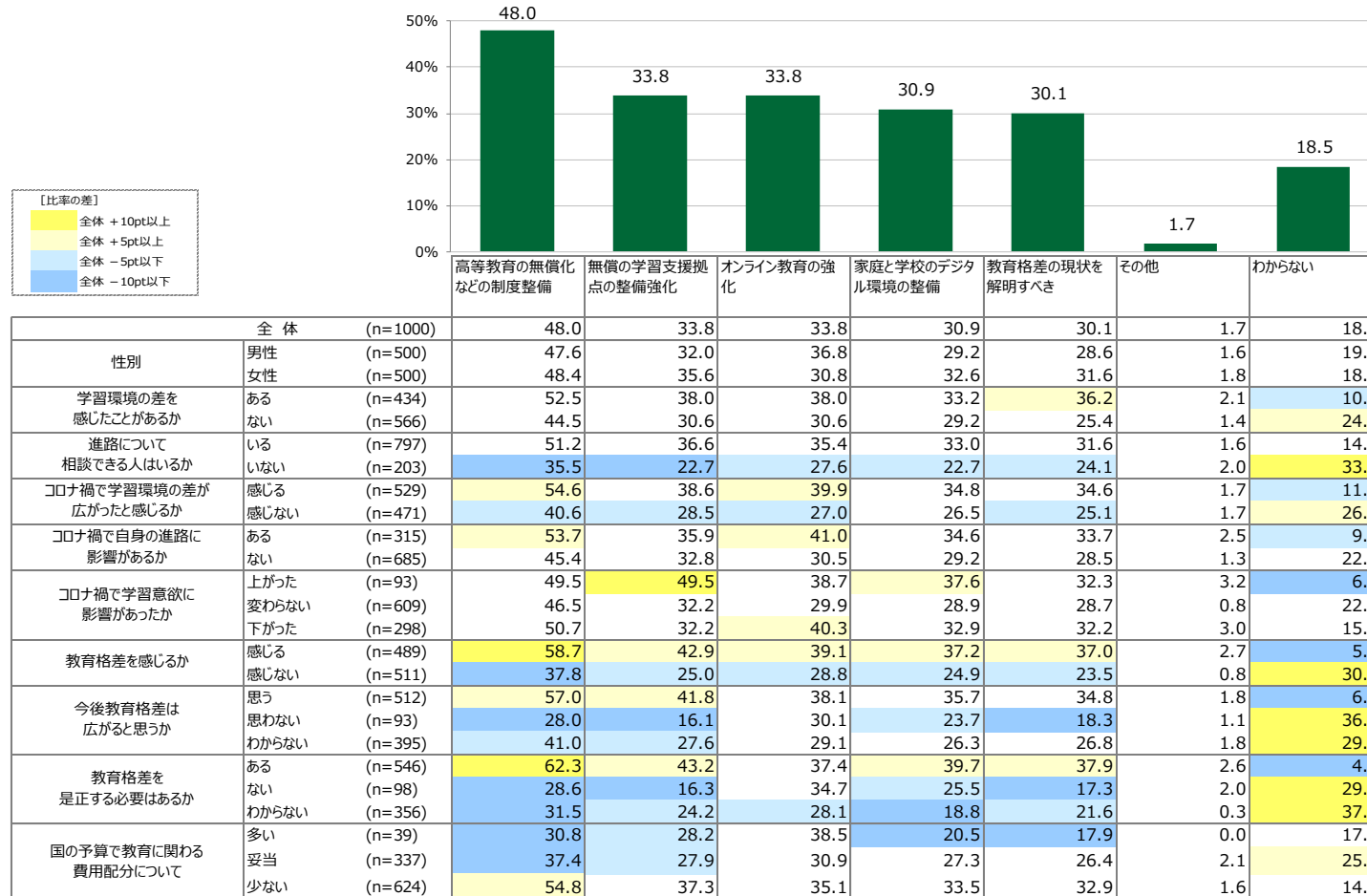
Q 教育格差を是正する必要はありますか。



教育格差を是正するために必要だと思うこと

- 教育格差を是正するために必要だと思うことは、「高等教育の無償化などの制度整備」(48.0%)が最多。次いで、「無償の学習支援拠点の整備強化」(33.8%)、「オンライン教育の強化」(33.8%)と続く。

Q 教育格差を是正するために、何が必要だと思いますか。(複数回答)



教育に関わる国の予算の配分について

- 教育に関わる国の予算について、「少ない」が62.4%と過半数を占める。

Q 国の予算で教育に関わる費用は5.4%です。この配分について、どう思いますか。

